



漂流・漂着・海底ごみに係る削減方策総合検討事業費 (うち、漂着ごみ対策総合検討事業、漂流・海底ごみ対策総合検討事業)

平成29年度要求額
157百万円 (79百万円)
うち107百万円 (79百万円)

事業目的・概要等

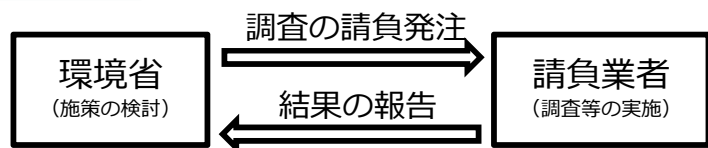
背景・目的

- 海洋プラスチックごみの主要排出源である東アジア等（東南アジア含む）の海洋ごみ対策は、世界における喫緊の課題。
- このため、本年5月のG7 富山環境大臣会合において、関係国等へのアウトリーチの重要性について合意。
- 我が国にとっても、東アジア等各国は、海流の上流域に当たることから、我が国近海の海洋ごみ削減のためには、東アジア等各国における海洋ごみ対策の促進が必須。
- 東アジア等各国における海洋ごみ削減のためには、これらの国から排出された海洋ごみの実態把握が急務。

事業概要

- 漂流・漂着・海底沈降に係る一連のプロセスを把握するため、マイクロプラスチックを含む漂流・海底ごみの量・分布等の実態を把握するとともに、マイクロプラスチックに含まれる有害物質の抽出等を実施する。
- H29年度からは、調査海域を拡大し、本州・九州等の近海に加え、我が国南方海域における東アジア等由来の海洋ごみの実態把握を進める。

事業スキーム



期待される効果

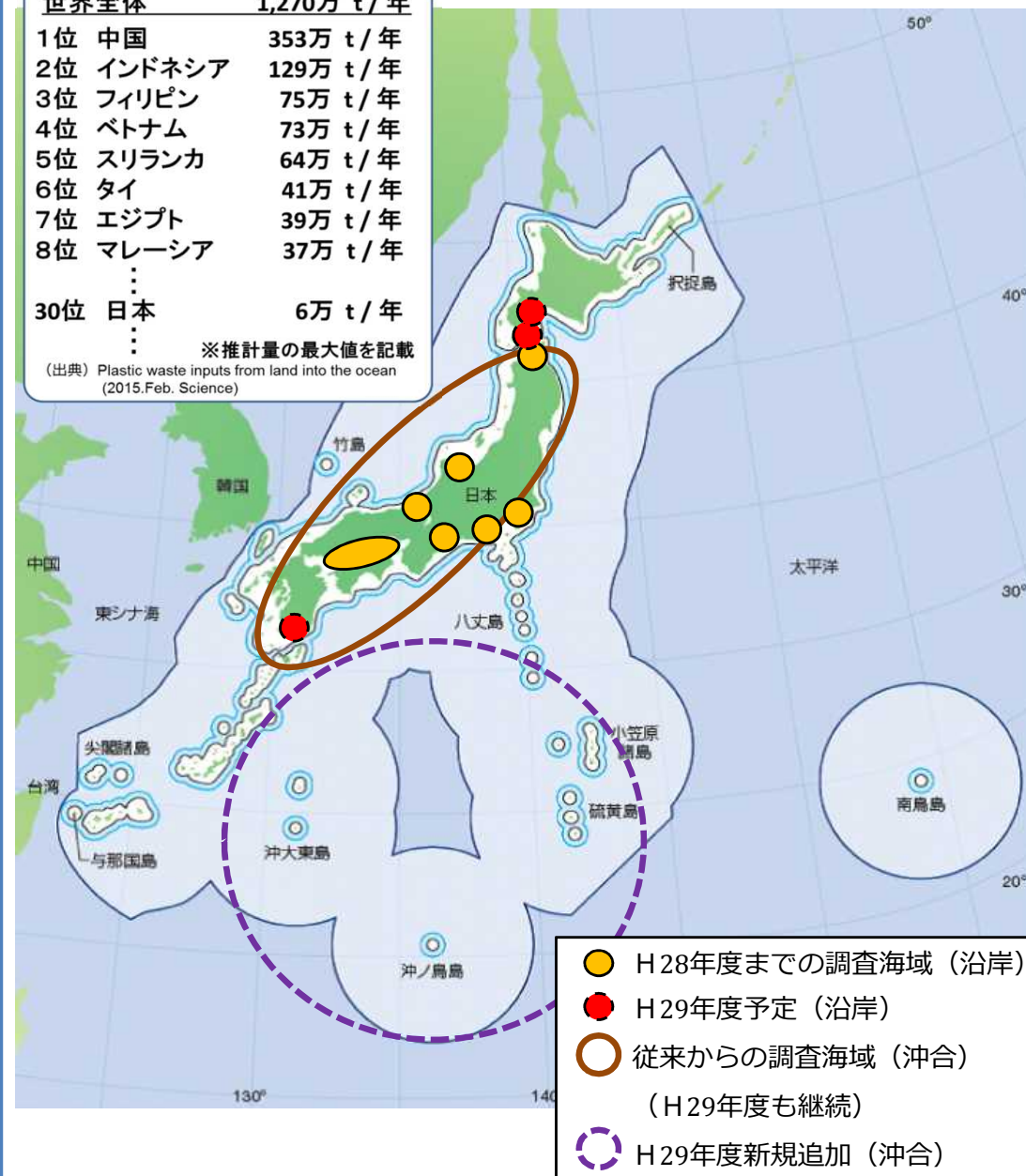
- 主要排出国である東アジア等由来の海洋ごみの実態把握により、当該国における海洋ごみ対策を促進する。
- これにより、我が国近海の海洋ごみを削減するとともに、世界的な海洋ごみ排出量の削減を図る。

陸上から海洋に流出したプラスチックごみ発生量(2010年推計)ランキング

世界全体	1,270万 t / 年
1位 中国	353万 t / 年
2位 インドネシア	129万 t / 年
3位 フィリピン	75万 t / 年
4位 ベトナム	73万 t / 年
5位 スリランカ	64万 t / 年
6位 タイ	41万 t / 年
7位 エジプト	39万 t / 年
8位 マレーシア	37万 t / 年
...	...
30位 日本	6万 t / 年
...	...

※推計量の最大値を記載
(出典) Plastic waste inputs from land into the ocean (2015, Feb. Science)

イメージ





漂流・漂着・海底ごみに係る削減方策総合検討事業費 (うち、海洋ごみ国際戦略総合検討事業)

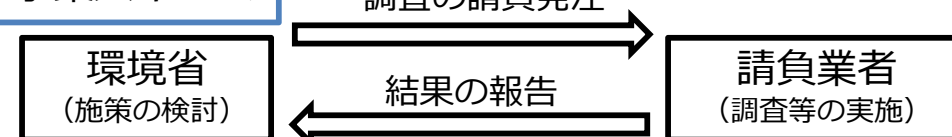
平成29年度要求額
157百万円 (79百万円)
うち50百万円 (新規)

事業目的・概要等

事業概要

- ①海洋ごみに係る戦略的国際展開のあり方を検討する。
- ②東アジア等における海洋ごみ調査に係る人材を育成する。
- ③モニタリング手法の調和に向けた国際連携を実施する。

事業スキーム



期待される効果

これらの取組を総合的に推進することにより、海洋ごみ、とりわけマイクロプラスチックの削減を図り、海洋環境保全に資するとともに、国際協力により、我が国のプレゼンス強化に資する。

イメージ

実施結果の
フィードバック

○海洋ごみに係る戦略的国際展開のあり方検討業務

- ・海洋ごみに係る国際動向を収集
- ・グッドプラクティスの我が国への導入の検討
- ・我が国の海洋ごみに係る国際協力戦略の検討

方針策定

実施結果の
フィードバック

○東アジア等における海洋ごみ調査に係る人材育成業務

- ・中韓露+東アジア等各国に対する人材育成強化のための招へい研究プログラムの推進

○モニタリング手法の調和に向けた国際連携業務

- ・世界各国 (G7 各国、東アジア等各国、中・韓・露等) から研究者を招へいし、国際ワークショップを開催
- ・とりまとめ結果に関する国際シンポジウムの開催

- ・中韓露等の我が国周辺国における海洋ごみ対策の充実・強化
- ・東アジア等における海洋ごみ調査等の促進

- ・調査の現状・進捗及び今後の見通しの共有
- ・最適なモニタリング手法のあり方について意見交換
- ・国際会議等を通じた幅広い情報発信

世界的な海洋ごみ実態把握及び対策の促進